

17組の親子が、接合研のAM(3Dプリンティング)と接合技術を見学！

植原 邦佳

技術部 技術専門職員

令和7年8月7日(木)に「親子で遊ぼう 女性技術職員の夏休み子供サイエンス 2025」が開催され、小学3,4年生の児童とその保護者が接合科学研究所の最先端のAM(3Dプリンティング)と接合技術を見学しました。

本イベントは、大阪大学の理系部局に所属する女性技術職員で構成される大阪大学部局横断型女性技術職員ネットワークが「子供たちとその保護者へサイエンスの面白さを伝えることで将来の理系人材の芽を育むこと」を目的に開催している子供サイエンスイベントです。日本全国規模での開催は5回目となり、今回は、全国11の教育研究機関に所属する技術職員の協力のもとオンサイト5会場とオンライン8会場に74組の親子が参加しました。

プログラムの前半では、自分たちで作った分光筒を使って身の回りの光を観察し、結果をレポートにまとめました。実験終了後は全ての会場をオンラインでつなぎ、子どもたちが「科学者」として研究発表を行いました。その後、分光筒の解説講義や光に関連する最先端の研究動画にて理解を深めました。

プログラムの後半では、大阪大会場に参加した17組の親子が接合科学研究所を訪れ、青色レーザーを使用した最先端の金属AM装置をはじめ、摩擦攪拌接合装置、走査電子顕微鏡を見学しました。大きな実験装置に驚きつつも、銅の積層造形物を手にしたり、継手ができる様子を見たりして、子供たちは目を輝かせていました。また、実際に走査型電子顕微鏡を操作し、研究者になった気分を味わいました。アンケートでは、「世界最先端の研究を真近で見ることが出来て、子供も驚いていました。」「憧れみたいな気持ちを、息子が持ってくれたのではないかと思います。」という声も頂戴しました。また、AMにレーザーが使用されていることを知り、プログラム前半の『光』についての学びが大学の研究や最新技術につながっていることを感じる事ができたという声も頂きました。

本イベントを通じて、子供たちと保護者の皆様に科学の面白さ、素晴らしさ、そして大学の活動を伝えることができたように思います。さらに、接合科学研究所の見学が身の回りの溶接・接合技術に目を向けるきっかけになればとても嬉しく思います。



接合科学研究所 施設見学の様子